

# 社会（公民的分野）

東 京 書 籍

教 育 出 版

帝 国 書 院

日 本 文 教 出 版

自 由 社

育 鵬 社

調査結果 **社会(公)**

	観点A			観点B			観点C	
	知識及び技能			思考力・判断力・表現力等			学びに向かう力・人間性等	
研究調査事項  発行者	学習内容の箇所数 活用できる概念などに関する 活用の場面で 活用できる概念などに関する 活用できる概念などに関する 活用できる概念などに関する	調査や資料から様々な情報を 効率的に調べまとめる技術を 身に付ける学習内容の箇所数	社会的な事象の意義・多角的 や相互の関連を多面的・多 社会的な事象の意義・多角的 や相互の関連を多面的・多	社会に求められる課題の解決 内容の選択・判断したりする 内容の選択・判断したりする	思考・判断したことを説明し り、それらを基に議論したりす る学習内容の箇所数	社会的な事象について、よりよ 社会的な事象について、よりよ 社会的な事象について、よりよ	多角的な学習内容の箇所数 た多角的な学習内容の箇所数 た多角的な学習内容の箇所数	
東京書籍			○		○		○	
教育出版		○		○	○			
帝国書院		○	○			○		
日本文教出版	○		○			○		
自由社	○			○			○	
育鵬社	○				○	○		

種目名 社会（公民的分野）	発行者名	東京書籍
観点	選定のための参考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各章の振り返りのページの中で、重要な用語についてまとめられている。</li> <li>・学習の振り返りの場面において、ページ数が添えられているので振り返りがしやすく、生徒が知識を理解するのに役立つ工夫がされている。</li> <li>・資料が多く掲載されているとともに、各資料を読み取る技能を高めるための課題が提示されている。また、思考の整理やまとめに適した様々な思考ツールも提示されている。</li> </ul>	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「トライ」では、社会的事象の意義等を多面的・多角的に考察することに加えて、「持続可能性」や「効率と公正」の観点を踏まえて、理解をより深化させることができるようになっている。</li> <li>・章末の「探究のステップの問いを解決しよう」では、様々な方法で課題の解決方法に向けて話し合うことができるようになっている。</li> <li>・「見方・考え方」では、学習内容を活用し、発展させていくような問題や自分の立場を明らかにして対話する活動もあり、より学びが深まる工夫がされている。</li> </ul>	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成人年齢の引き下げに対応したより現実的な特集が組まれていて、社会を担う一員としてよりよい社会の実現に向けて学びに向かうことを促しており、教科書で学んだことを踏まえて、身近な地域のよりよい形を目指して自分の考えをもてることができるよう工夫されている。</li> <li>・社会で起こりうる事象にどう対応するか、さまざまな角度から考察し、合意を形成する活動が設定されている。また、思考ツールの活用が取り上げられており、自分の考えを整理しやすい。</li> </ul>	

種目名 社会（公民的分野）	発行者名	教育出版
観点	選定のための参考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「LOOK」では、導入資料に関する説明がされていて、スムーズに学習が進められるよう工夫されている。</li> <li>・「確認」では問題を解くことによって、基礎的な事柄をおさえることができるようになっている。</li> <li>・資料が多く掲載されている。また、各章のまとめの中で、資料を深く読み取るための課題も出されており、資料を活用する力が身につけられる工夫がされている。</li> </ul>	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各ページに「表現！」というコーナーがあり、学習内容の到達を図りつつ、社会的事象の意味を確認できる。また、「読んで深く考えよう！」「さらにステップアップ」では、思考力・判断力・表現力を養う活動や考察を行うことができ、学習を深化させる工夫がされている。</li> <li>・単元末のコーナーでは、持続可能な社会の実現に向けて主体的に課題解決する力を育てることができる工夫がみられたり、ディベートについてまとめられたりしており、効率的にディベートをすることができる。</li> <li>・「言葉で伝え合おう」では、多様な表現活動を行うことができ、対話を通じて深い学びにつなげることができる。</li> </ul>	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際の生活で起こりうることや身近な事象を取り上げることによって、主体的に課題解決しようとする態度を養うことができる。</li> <li>・各章のまとめで、単元のテーマについて多面的・多角的に考察を深める課題が出されている。</li> </ul>	

種目名 社会（公民的分野）	発行者名	帝国書院
観点	選定のための参考	
<p style="text-align: center;">A</p> 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インデックスがあり、調べたいページや、今何を学習しているのかが分かりやすい。</li> <li>・資料が豊富に掲載されている。また、各資料には、資料を深く読み取るための課題が提示されており、資料活用の技能が身につく工夫がされている。</li> <li>・「技能を磨く」では、思考ツールなどを活用し、基礎的な技能が身に付けられるような内容となっている。</li> </ul>	
<p style="text-align: center;">B</p> 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・習得した知識を活用して、社会的事象についてより深く考察できるよう工夫されている。また、「Yes Noテーマ」では、現代の課題について多面的・多角的に考えることができる。</li> <li>・課題の解決に向けて、様々な視点から自分がどう捉えるか、どう関わるかなどについて、自分の考えをまとめることができる。</li> <li>・現代社会で議論されているテーマについて賛否の意見が紹介されており、多面的・多角的に考察し、ディベートすることができる。</li> </ul>	
<p style="text-align: center;">C</p> 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よりよい社会の実現に向けて学習することができるよう、様々な分野で活動する方々へのインタビューが盛り込まれている。</li> <li>・「アクティブ公民」では、様々な社会的な課題について、対話的な活動を通じて、深く考察できる内容となっている。</li> </ul>	

種目名 社会（公民的分野）	発行者名	日本文教出版
観点	選 定 の た め の 参 考	
<p style="text-align: center;">A</p> 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インデックスがあり、調べたいページや、今何を学習しているのかが分かりやすい。</li> <li>・「公民プラスα」のコーナーを活用することで、身近な事柄と関連付けながら知識を習得することができるように工夫されている。</li> <li>・各章のまとめでは、シンキングツールを活用しながら情報をまとめることができる。</li> </ul>	
<p style="text-align: center;">B</p> 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習内容をさらに深めるために、効果的な資料が用意されており、考察することを通して、思考力・判断力・表現力を向上させることができる。</li> <li>・「確認」や「深めよう」では、社会にみられる課題の解決に向けて、自分だったらどう働きかけるかなど、主体的に考えをもち、まとめることができ、表現力を高められるよう工夫されている。</li> <li>・教科書の内容に関連した設問があり、話し合いを通して、さらに理解を深めることができる。</li> </ul>	
<p style="text-align: center;">C</p> 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会参画にかかわって、SDGs・防災・キャリア教育など様々なテーマで特集が組まれており、主体的に学ぼうとする姿勢をもつことができる。</li> <li>・「アクティビティ」では、様々な視点からの情報が掲載されていたり、対話的な活動を行ったりする課題が出されており、多面的・多角的な思考につながる。</li> </ul>	

種目名 社会（公民的分野）	発行者名	自由社
観点	選 定 の た め の 参 考	
<p style="text-align: center;">A</p> 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「もっと知りたい」では、「科学とは何だろう」といった疑問を投げかける形で社会的な課題について丁寧に解説されている。</li> <li>・「ここがポイント！」には各ページの学習内容が要約して書かれており、学習内容を振り返りやすい。</li> <li>・「新聞の読み比べ」では、情報を読み取るための技能を高めることができる。</li> </ul>	
<p style="text-align: center;">B</p> 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的事象を多面的・多角的に考察できる内容であり、教科書に直接書き込むスペースがあり、取り組みやすくしている。</li> <li>・課題解決に向けて、どのように関わるかなど、自分の考えをまとめることができる設問があったり、「やってみよう」では、調べたり比較したりして話し合えることができるテーマが設定されている。</li> <li>・思考・判断した内容を話し合うなど、自他の意見を発展することができる工夫がされている。</li> </ul>	
<p style="text-align: center;">C</p> 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「レポートと卒業論文をつくろう」の単元では、卒業論文の制作を通じて、主体的に社会的事象について探究することができる。</li> <li>・「アクティブに深めよう」では、社会的な課題について様々な視点から考察を深めることができる。</li> </ul>	

種目名 社会（公民的分野）	発行者名	育鵬社
観点	選 定 の た め の 参 考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各章の最初に「〇〇の入り口」を設け、これから学ぶ学習内容に関する知識や社会における様々な場面で活用できる内容を取り上げている。</li> <li>・学習内容を深めるためのコラムが多数掲載されており、知識の定着を図ることができる。</li> <li>・学習の導入では、キャラクターの吹き出しによって資料を読み取る視点が示されており、分かりやすいように工夫されている。</li> </ul>	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的事象について、文字数設定やキーワード設定のある記述があり、考察をしたり理解を深めたりすることができる。</li> <li>・各章末の学習のまとめなどで、課題の解決に向けて、自分の考えをまとめることができる設問がある。</li> <li>・「スキルアップ」のコーナーでは、様々な話合いの仕方や意見のまとめ方が記載されている。</li> </ul>	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各単元のはじめに、よりよい社会の実現のために学ぼうとすることができる資料やイラストが取り入れられていたり、課題やまとめが提示されていたりしており、主体的な学習につながる工夫がされている。</li> <li>・社会的事象や課題について、多面的・多角的に考察し、社会の一員として主体的に学ぼうとする姿勢をもつことができる内容が扱われている。</li> </ul>	



# 地 図

東 京 書 籍

帝 国 書 院

## 観点の内容

### 社会科 地図 目標

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

観 点	観点のための研究調査事項	指導についての留意事項
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地図の使い方や読図・作図などの活用方法を取り上げている箇所数</li> <li>・ 見学調査の方法、学習の進め方やまとめ方を取り上げている箇所数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科用図書「地図」は、地図を効果的に活用することともかかわって、社会的事象を適切に見たり考えたりする能力を育てるために必要な教材である。教科用図書「地図」は、地名の位置を確認することができるだけでなく、社会的事象の様子や関係、自然環境とのかかわりを調べることもできる。こうした活用の仕方を身に付けるとともに、教科用図書「地図」を日常的に活用し、教科用図書「地図」への親しみを持たせ、課題解決のために教材として効果的に活用する知識や技能を育てよう留意する。</li> </ul>
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本図の箇所数 (世界地図、日本地図、世界州別図、日本地域別図)</li> <li>・ 資料図の箇所数 (社会的事象の様子や関係、自然環境とのかかわり、その他)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 考察、構想(選択・判断)したことを、教科用図書「地図」を適切に用いて論理的に示したり、その示されたことを根拠に自分の意見や考え方を伝え合い、自分や他者の意見や考え方を「地図」に表したりする表現力を育成しよう留意する。</li> </ul>
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料図のテーマの数</li> <li>・ 巻末の統計資料の項目の数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科用図書「地図」を活用し、社会的事象について主体的に調べ分かれようとして学習上の課題を意欲的に解決しようとする態度や、よりよい社会の実現に向けて、多面的・多角的に考察、構想(選択・判断)したことを社会生活に生かそうとする態度を養うよう留意する。</li> </ul>

## 調査方法

### 種目名【 地図 】

観点	調査する内容・項目についての説明
<p style="text-align: center;"><b>A</b></p> <p>知識及び技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地図の使い方や読図・作図などの活用方法を取り上げている箇所数について調査を行った。</li> <li>例) 地図帳の使い方の説明などが掲載されている箇所</li> <li>・見学調査の方法、学習の進め方やまとめ方を取り上げている箇所数について調査を行った。</li> <li>例) 見学調査の方法、学習の進め方やまとめ方などが掲載されている箇所</li> </ul>
<p style="text-align: center;"><b>B</b></p> <p>思考力・判断力・表現力等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本図の箇所数、資料図の箇所数について調査を行った。</li> <li>例) 世界の生活・文化について掲載されている箇所数</li> <li>例) 各地域の資料図の項目数（農業分布・鉱産資源など）</li> </ul>
<p style="text-align: center;"><b>C</b></p> <p>学びに向かう力・人間性等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料図のテーマの数や巻末の統計資料の項目の数について調査を行った。</li> <li>例) 「日本の自然環境」や「日本の災害と防災」などのテーマで扱われている資料図の項目数</li> </ul>

# 調査結果

## 社会地図

	観点A		観点B		観点C	
	知識及び技能		思考力・判断力・表現力等		学びに向かう力・人間性等	
研究調査事項  発行社	活用地図の使い方や読図・作図などの方法を取り上げている箇所数	見学調査の方法、学習の進め方やまとめ方を取り上げている箇所数	基本図の箇所数（世界地図、日本地図、世界州別図、日本地域別図）	資料図の箇所数（社会的事象の様子や関係、自然環境とのかかわり、その他）	資料図のテーマの数	巻末の統計資料の項目の数
東京書籍			○	○	○	
帝国書院	○	○				○

種目名 地図	発行者名	東京書籍
観点	選 定 の た め の 参 考	
<p style="text-align: center;">A</p> 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般図に加えて断面図などが随所に掲載されており、地形の特色をイメージしやすく、理解しやすくなっている。</li> <li>・「一般図の見方」「資料の読み取り方」が説明されているとともに、「歴史的分野や公民的分野との関連」といった他分野との関わりを取り上げることで、知識理解につなげている。</li> </ul>	
<p style="text-align: center;">B</p> 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関連する内容についてさらに詳しく示されたページを紹介する「ジャンプ」コーナーを活用し、資料図に対してより深く学習課題を追究し、考察しやすいように工夫されている。</li> <li>・世界の各州や日本の地域ごとにテーマ資料が掲載され、テーマごとに考察しやすいように工夫されている。</li> <li>・資料図に関連する写真やグラフが適切に挿入されており、多面的・多角的に考察しやすいように工夫されている。</li> </ul>	
<p style="text-align: center;">C</p> 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代的な諸課題の理解を深められるテーマが掲載されており、学習内容を身近に捉え、学習課題に主体的に取り組めるよう促している。</li> <li>・随所にキャラクターによる吹き出しのコメントを挿入し、学習に対する興味・関心をもちやすいように工夫されている。</li> <li>・二次元コードを利用して、インターネットを使った学習を主体的に行うことができる。</li> </ul>	

種目名	地図	発行者名	帝国書院
観点	選 定 の た め の 参 考		
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大判化されたことにより見やすくなり、地域間の結びつきがより分かりやすくなっている。世界の各州には、イラストを配した鳥瞰図があり、地域の特色が理解しやすいように題材が工夫されている。</li> <li>・「地図活用」では、その地図に関する問題設定が適切にされており、学習課題を明確にすることで、生徒が学習に取り組みやすいように工夫されている。</li> </ul>		
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の各地方全てに、自然環境・人口・産業・交通の四つを中核とした事象の資料図が掲載されている。</li> <li>・各事象を同縮尺で示すことで、因果関係を比較・関連付けながら考えられるようになっている。</li> <li>・江戸時代の五街道や航路を示すことで、歴史的事象の位置関係を地図で確認できるよう工夫されている。</li> </ul>		
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地図帳の構成や、方位、地図記号、縮尺、さくいんの使い方など、地図帳の基本的な見方・使い方が巻頭の「地図帳の使い方」で5ページにわたって分かりやすく解説されており、自学自習の際に活用しやすくなっている。</li> <li>・多くのページに二次元コードが掲載されており、インターネットを使いながら主体的に学習課題に取り組めるように工夫されている。</li> <li>・大都市中心部（東京・大阪・京都）の資料が掲載され、修学旅行や校外学習などで地図帳を活用しながら学習を進めるなど、教科等横断的に活用できるようになっている。</li> </ul>		

# 数 学

東 京 書 籍

大 日 本 図 書

学 校 図 書

教 育 出 版

啓 林 館

数 研 出 版

日 本 文 教 出 版

## 観点の内容

### 数学科 目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- (2) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
- (3) 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。

観 点	観点のための研究調査事項	指導についての留意事項
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 数量や図形についての基礎的な知識及び技能を身に付けさせる「例・例題」「問・練習問題」の箇所数</li> <li>・ 学習のまとめ、公式や性質を扱っている事項の箇所数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計算などの技能を学ぶ際には、その手続きの基礎に概念や原理・法則があることや、概念や原理・法則をうまく使って数学的な処理の仕方が考え出されることを理解させることに留意する。</li> <li>・ 問題発見・解決の過程において、数学を適切に活用するためには、生きて働く数学的な知識に支えられた技能を習得させることに留意する。</li> </ul>
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 思考力・判断力・表現力を身に付けさせる「例・例題」「問・練習問題」の箇所数</li> <li>・ 問題発見・解決する過程において、見通しをもち筋道を立てて考える内容を取り扱っている箇所数</li> <li>・ 具体物、図、言葉、式、表、グラフなどを用い、自分の考えを表現したり、説明したりする学習活動を取り上げている箇所数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 数学の事象から問題を見だし、数学的な推論などによって問題を解決し、解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察する過程を遂行することを通して養われるように留意する。</li> <li>・ 目的に応じた的確な数学的な表現を選択したり、一つの対象の幾つかの数学的な表現を相互に関連付けたりすることを通して、事象の本質を捉えたり、理解を深めたりするように配慮することに留意する。</li> </ul>
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各々の内容や方法などがもつよさを明らかにしていくような課題を取り扱っている箇所数</li> <li>・ 生活や学習の様々な場面で数学を活用する内容を取り上げている箇所数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単にでき上がった数学を知るだけでなく、事象を理想化したり抽象化したりして数学の舞台にのせ、事象に潜む法則を見つけたり、観察や操作、実験などによって数や図形の性質などを見だし、見いだした性質を発展させたりする活動を通して数学を学べるように留意する。</li> <li>・ 数学が日常生活や社会生活において、また他教科の学習やその後の人生において必要不可欠なものであることに気付かせることに留意する。</li> </ul>



## 調査方法

### 種目名【 数学 】

観点	調査する内容・項目についての説明
<p style="text-align: center;"><b>A</b></p> <p style="text-align: center;">知識及び技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数量や図形についての基礎的な知識及び技能を身に付けさせる「例・例題」「問・練習問題」の箇所数について調査を行った。</li> <li>例) 「例・例題」の箇所及び、「問・練習問題」等の適用問題の箇所</li> <li>・学習のまとめ、公式や性質を扱っている事項の箇所数について調査を行った。</li> <li>例) 「このように、代入によって1つの文字を消去する方法を<b>代入法</b>といいます。」</li> <li style="padding-left: 2em;">「角錐、円錐の底面積をS、高さをh、体積をVとすると、<math>V = \frac{1}{3} S h</math>」</li> <li>等、特だして記載している箇所</li> </ul>
<p style="text-align: center;"><b>B</b></p> <p style="text-align: center;">思考力・判断力・表現力等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思考力・判断力・表現力を身に付けさせる「例・例題」「問・練習問題」の箇所数について調査を行った。</li> <li>例) 「例・例題」の箇所及び、「問・練習問題」等の適用問題の箇所</li> <li>・問題発見・解決する過程において、見通しをもち筋道を立てて考える内容を取り扱っている箇所数について調査を行った。</li> <li>例) 「姉が弟に追いつくのは家から何mのところかな」</li> <li style="padding-left: 2em;">「ほかにどんなことが読み取れるかな」</li> <li style="padding-left: 2em;">「～を使って、～だと予想しました。という形で説明しよう。」</li> <li>等、吹き出しなどで課題を明確にしたり、見通しをもたせたりする内容が記載されている箇所</li> <li>・図、言葉、式、表、グラフなどを用い、自分の考えを表現したり説明したりする学習活動を取り上げている箇所数について調査を行った。</li> <li>例) 「～を説明しましょう。」「～図や式に表しましょう。」など、表現したり、説明したりする活動が記載されている箇所</li> </ul>
<p style="text-align: center;"><b>C</b></p> <p style="text-align: center;">学びに向かう力・人間性等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各々の内容や方法などがもつよさを明らかにしていくような課題を取り扱っている箇所数について調査を行った。</li> <li>例) 「相似な図形をかくことによって、2点間の距離を求めることができます」</li> <li style="padding-left: 2em;">「○○と△△の関係を一次関数とみることができます。」</li> <li>等、問題やまとめ、吹き出しなどでよさについて記載されている箇所</li> <li>・生活や学習の様々な場面で数学を活用する内容を取り上げている箇所数について調査を行った。</li> <li>例) 「鉄道の運行の様子を表したダイヤグラムを読み取ってみよう」</li> <li style="padding-left: 2em;">「身の回りにおける放物線について調べよう」</li> <li>等、日常生活に関わりのあることを問題に設定されているものや、コラム等で数学を活用している場面を紹介している箇所</li> </ul>

調査結果

数学

		観点A		観点B			観点C	
		知識及び技能		思考力・判断力・表現力等			学びに向かう力・人間性等	
研究調査事項	発行者	数量や図形について基礎的な知識及び技能を身に付けさせる「例・例題」の箇所数	学習のまとめ、公式や性質を扱っている事項の箇所数	思考力・判断力・表現力を身に付ける「例・例題」の箇所数	問題発見・解決する過程において、見通しをもち筋道を立てて考える内容を取り扱っている箇所数	具体物、図、言葉、式、表、グラフなどを用い、自分の考えを表現したり、説明したりする学習活動を取り上げている箇所数	各々の内容や方法などがもつよさを明らかにしている箇所数	生活や学習の様々な場面で数学を活用する内容を取り上げている箇所数
		東京書籍	1年生			○	○	
2年生				○	○	○		
3年生			○		○		○	
大日本図書	1年生	○		○				○
	2年生	○		○				○
	3年生	○		○				○
学校図書	1年生			○	○			○
	2年生			○	○	○		
	3年生			○		○		○
教育出版	1年生		○	○		○		
	2年生		○			○		○
	3年生		○		○			○
啓林館	1年生	○				○		○
	2年生	○			○	○		
	3年生	○				○	○	
数研出版	1年生		○		○		○	
	2年生		○	○			○	
	3年生		○		○		○	
日本文教出版	1年生	○					○	○
	2年生	○		○			○	
	3年生	○		○			○	

種目名 数学	発行者名	東京書籍
観点	選 定 の た め の 参 考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導入の「考えてみよう」という活動があった後に、「例」「問」が設定されており、知識及び技能を身に付けることができる構成になっている。また、補充問題として、節や章の終わりに「基本の問題」「章の問題A」があり、精選された問題数で構成されている。</li> <li>・数学の用語や公式については、文章中に簡潔に書かれていたり、枠で囲ったりしながらまとめられている。気を付けるべきポイントについては、「注意」と書かれた項目でおさえられている。既習の内容については、「ちょっと確認」で、その時々で振り返りができるようになっている。</li> </ul>	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題発見・解決をする過程で、見通しをもち筋道を立てて考えることができる学習の流れになっている。また、吹き出しなどを用いて課題を明確にしたり、解決の手立てとなるヒントを掲載したりするなどの工夫がされている。</li> <li>・単元内の適切な箇所に「(考えや理由を)説明しなさい。」という活動が設けられ、効果的に言語活動が取り入れられている。</li> <li>・単元の後半にある数学的活動では、自分の考えをもつことを中心とした展開となっている。その後、友達と考えを交流したり、友達の考えに沿って問題解決したりする展開になっている。そのことにより、自分の考えと友達の考えを比較して、自分の考えをより深めることができる。</li> </ul>	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・章のはじめに具体的な場面を設定して問題を考えさせ、巻末「大切にしたい見方・考え方」では、数学の学習内容が日常生活でどのように活用されているか、興味をひく工夫がされている。</li> <li>・「数学の自由研究」では、他学年で学習することや他教科と関連する学習内容を明記し、深い学びにつなげる工夫がされている。</li> </ul>	

種目名 数学	発行者名	大日本図書
観点	選 定 の た め の 参 考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「活動」の後に、「例」「たしかめ」の問題が設定されており、その問題に続く形で、「Q」「プラス・ワン」の問題へと段階的に学習をすすめていくように設定されている。補充問題については、当該学年の内容に限らず、「小学校算数の振り返り」「1・2年の復習」などの内容についても設定されており、幅広い問題レベルの内容が記載されている。</li> <li>・数学の用語や公式については、文章中に簡潔に書かれおり、枠で囲ってまとめられている。既習の内容については、「思い出そう」という項目で、学習の流れの中で振り返りができるようになっている。復習の問題と数学的用語や公式のまとめが同一ページ内に構成されている。</li> </ul>	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考えを読み取る問題、間違いを発見・訂正する問題が多く取り上げられている。また、理由や考え方を説明する問題も多く取り上げられており、思考力・判断力・表現力等を身につけられる工夫がされている。</li> <li>・既習の内容をもとに、きまりや特徴を捉えたり、共通点や相違点などを比較したりしながら、思考力・判断力・表現力等を発揮して、新たな学びにつなげていく学習の流れがある。</li> <li>・数学的活動では、「〇〇さんの考え」としてことばや式、図が示されている。それぞれの考えを説明させる活動が多い。また、複数の考えを比較して、それぞれの考えのよさを見出させる活動を通して、思考力・判断力・表現力等が身につけられる工夫がされている。</li> </ul>	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・章末に「活用・探究」、巻末に「MATHFUL」のページが設けられ、様々な分野で、数学を活用できる良さを感じられる工夫がされている。また、「社会にリンク」というコーナーも設定され、仕事の中で数学を活用している人々の話がコラムとして紹介されている。</li> <li>・どの学習項目に対しても「めあて」が明示され、目的意識を持って課題に取り組める工夫がされている。例えば、1年生の関数分野では、「2つの数量の関係を調べて問題を解決し、生活に生かそう」というめあてに対して、電子レンジの温める時間と出力の間に反比例の関係があると数学的に捉え、解決する力を高めさせている。</li> </ul>	

種目名 数学	発行者名	学校図書
観点	選 定 の た め の 参 考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導入の「QUESTION」で活動を行った後に、「例」「問」「ふりかえり」がひとまとめで構成されている。各学年で、家庭学習や計算練習で利用できる「計算力を高めよう」というページが設定されている。補充問題は、基礎・基本の問題が色付けされた形で強調されており、定着を図る工夫がされている。</li> <li>・各章のはじめに、その単元に必要な知識及び技能を振り返るページがある。1・2時間の授業毎に「どんなことがわかったかな」という項目で、学習してきたポイントが簡潔にまとめられている。</li> </ul>	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの単元においても、「考え方」という項目が多く設けられており、課題解決に向けて見通しを持ち、筋道を立てて考える過程を整理している。</li> <li>・学習の最後にある「どんなことがわかったかな」では、この学習で身につけた思考力・判断力・表現力等を確認することができる。さらに、学習した内容から新たな疑問や課題として見出したことを、「次の課題へ！」で取り上げ、学習内容を発展的に展開する工夫がされている。</li> <li>・数学的活動では、「〇〇さんの考え」として、複数の考えがことばや式、図で示されていたり、それぞれ考えを説明させたりする活動がある。また、いくつかの考えを比較し、それぞれの考えのよさを見出す活動が設定されている。さらに、問題を解決した後に「こんな場合はどうなるのか」「条件を変えたらどうなるか」など、問題をさらに発展させる吹き出しが掲載されている。</li> </ul>	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の巻末の「さらなる数学へ」に、上級学年や上級学校での学びとの関連が明記され、系統立てて学ぶことができる工夫がされている。</li> <li>・章末ごとに、「まとめの問題」では応用問題が、「役立つ数学」ではコラムが、「深めよう」では活用問題が掲載され、学習内容を深められるよう工夫されている。また、章の中でも、「Tea Break」というコラム欄では、交換法則や結合法則が減法でも成り立つのかなど、学びを深める内容が紹介されている。</li> </ul>	

種目名 数学	発行者名	教育出版
観点	選 定 の た め の 参 考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「Q」で計算や図形の読み取りなどの問題を解いた後、「例」「例題」「たしかめ」「問」といった知識及び技能に関する問題が設定されている。また、章のはじめには、単元の復習にあたる問題が設定されている。巻末の補充問題のほかに、生徒自身が二次元コードを読み取ることでさらに補充問題をプリントアウトまたは閲覧することができる。</li> <li>・章の最後に「学習のまとめ」というページで、その章で学習した内容がまとめられている。また、巻末には「学びのマップ」というページで、単元ごとのつながりについてもまとめられている。</li> </ul>	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの単元においても、「みんなに説明しよう」という学習活動が多く設定されており、自分の考えを整理して説明することや「みんなの考えを知る」などの言語活動により、思考力・判断力・表現力等を身につける工夫がされている。</li> <li>・学習活動の振り返りや思考過程の確認、学習した内容に関連した問いかけにより、問題の解決に向けた吹き出しが効果的に設定されている。登場人物同士だけでなく、学習者に問いかけるような工夫がされている。</li> <li>・数学的活動では、はじめに自らの力で問題解決する場面が設けられている。そのあと友達と話し合う活動があり、自分の考えと友達の考えを比較して、自分の考えをより深める工夫がされている。また、問題を解決するための考えだけでなく、解決する方法や解決のための条件を考える活動を取り上げている。</li> </ul>	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コラムや発展問題、学びを深められる内容が「数学の広場」に記載されている。例えば、1年生の正の数・負の数では、引くとマイナスのちがいについて説明し、算数と数学の接続を意識した工夫がされている。</li> <li>・各章の導入部分では、その章で学ぶ内容について実生活につながる場面がコラムのように紹介されている。また、それに続く「Let's Try」で興味をもちやすい課題を設定し、学習意欲を高める工夫がされている。</li> </ul>	

種目名 数学	発行者名	啓林館
観点	選 定 の た め の 参 考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ひろげよう」という活動があった後、「例」「問」の流れで知識及び技能に関する問題が設定されている。章末問題の「学びをたしかめよう」と「学びを身につけよう」では、各2ページを基本とした基礎・基本に関する問題が多く記載されている。教科書の裏から横置きで「自分から学ぼう編」が構成されており、家庭学習向けの問題が設定されている。</li> <li>・数学の用語や公式については、文章中に簡潔に書かれており、枠で囲ってまとめられている。既習の内容の振り返りや注釈については、シンプルな構成になっている。</li> </ul>	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの單元においても、「話しあおう」「説明しよう」など話し合い活動が設けられており、根拠や理由、手順などを説明する活動を通して、思考力・判断力・表現力等が身につけられる工夫がされている。</li> <li>・「？」では、問題を発展させるための問い返しや、きまりや特徴を捉え、理由を問う質問がされており、思考力・判断力・表現力等を働かせる工夫がされている。学習の終わりには、その場面で働かせた数学的な見方・考え方が示され、学習を振り返り他の場面でも活用できるように工夫されている。</li> <li>・数学的活動では、話し合い活動を通して日常場面を数理的に捉え、問題を見出す過程を大切にしている。問題を解決する過程に沿って、丁寧に解説されている。</li> </ul>	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「数学ライブラリー」では、数学的な広がりや、数学のよさを簡潔に紹介している。例えば、実際の琵琶湖の水位を用いて、負の数と負の数の積が正の数になることを求めさせている。</li> <li>・章末の「学びをいかそう」と、巻末にまとめて記載されている「学びをいかそう」では、身近な場面で数学を活用する問題や他学年で学習する内容を、分かりやすく丁寧に紹介されている。</li> </ul>	

種目名 数学	発行者名	数研出版
観点	選 定 の た め の 参 考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「Q」「TRY」の問題の後に、「例」「問」で知識及び技能に関する問題が設定されている。補充問題としては、章末に「確認問題」「問題A」、巻末に「チャレンジ編・力をつけよう」が設定されている。技能に関する問題については、章末の「問題A」で比較的難易度の高い問題が多く掲載されている。</li> <li>・普段の授業で使用するページに「NOTE」という項目があり、文字の書き方などの具体的な注意点が記載されている。各章の学習の前に、単元に関わる既習の内容を振り返るページが設定されている。学年ごとに、1年間で学習した公式や性質を扱った内容が系統的にまとめられている。</li> </ul>	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題を解決する過程で、吹き出しの中のやりとりを通して、状況を把握したり、問題解決の方法の見通しを立てたりして、筋道を立てて考えられるような学習の流れになっている。</li> <li>・問題解決にあたり、生徒や先生が意見を交換しながら学習する場面や4人組やペア学習する場面がイラストで掲載されている。実際に話し合い活動を行う際の参考となり、言語活動を充実させるための工夫がされている。</li> <li>・別冊「探究ノート」では、各課題の条件設定を解説するところから記述されている。登場人物のやりとりにおいても、課題のとらえ方や解決の方法など1つ1つ丁寧に表現されており、問題解決に向けて見通しを立てやすくなっている。</li> </ul>	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習をすすめるときに、生徒の気づきにつなげたい部分が吹き出しで紹介されている。例えば、1年生の文字と式では、「りんごの個数とみかんの個数を同じ文字で表していいのか」、3年生の2次方程式では、「<math>2x</math>でわるのはダメで、2でわっていいのはなぜだろう」などの数学的概念にふれる発問がある。</li> <li>・別冊「探究ノート」には、応用問題や発展的な内容が紹介されている。例えば、グラフを上下ではなく、左右に平行移動させると式はどう変化するかについて、文章やイラストを活用して、分かりやすく記載されている。</li> </ul>	



種目名 数学	発行者名	日本文教出版
観点	選 定 の た め の 参 考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「Q」「例」「問」の順に定型化された構成で知識及び技能に関する問題が設定されている。「計算の練習」「章の問題」「算数の確かめ」などでは、基礎・基本の定着を図る問題が多く記載されている。また章のはじめに単元に関わる既習内容を振り返る問題もある。</li> <li>・数学の用語や公式については、文章中に簡潔に書かれており、枠で囲ってまとめられている。小見出しで「大切な見方・考え方」という項目があり、知識及び技能に関する内容がキーワードで表現されている。</li> </ul>	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の解決にあたって「考え方」という項目が設けられており、見通しを持ち筋道を立てて考える過程を整理することで、思考力・判断力・表現力等を身につけられる工夫がされている。</li> <li>・単元のはじめに「Q」を設定し、既習の内容をもとに、きまりや特徴を捉えたり、比較して共通点や相違点を見出したりする活動から、思考力・判断力・表現力等を発揮して、新たな学びにつなげていく学習の流れがある。</li> <li>・数学的活動を取り上げた「学び合おう」では、「〇〇さんの考え」をもとに自分の考えを表現する例を示し、表現力を身につけさせる工夫がある。「深めよう」「もっと深めよう」では、条件や設定を変えて発展的に考える活動や、数を文字に置き換えるなど一般化する活動が設けられている。</li> </ul>	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巻末「マイトライ」では、学習したことを活用した内容が紹介されている。自分の興味に合わせて学習したことと関連したことが紹介されている。例えば、復習するための補充や日常生活で活用する数学、スクラッチを使ったプログラミングについて掲載されている。</li> <li>・「数学のたんけん」では、コラムや学びを深められる内容が記載され、日常生活や他教科とのつながりについても触れられている。</li> </ul>	

# 理 科

東 京 書 籍

大 日 本 図 書

学 校 図 書

教 育 出 版

啓 林 館

## 観点の内容

### 理科 目標

自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- (3) 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

観 点	観点のための研究調査事項	指導についての留意事項
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 観察、実験の方法、器具や機器などの使い方及び事故防止等の安全に関する記述の箇所数</li> <li>・ 観察記録や実験データを絵や文、表やグラフに表す活動を示した箇所数</li> <li>・ 単元ごとや章末の練習問題等及び学習内容を整理する工夫の箇所数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 観察、実験などを行うことを通して、自然の事物・現象に対する概念や原理・法則の理解を図るとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けることが重要である。その際、日常生活や社会との関わりの中で、科学を学ぶ楽しさや有用性を実感しながら、生徒が自らの力で知識を獲得し、理解を深めて体系化していくよう留意する。</li> <li>・ 観察、実験などに関する基本的な技能については、探究の過程を通して身に付けるよう留意する。</li> </ul>
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 問題を見いだして課題を設定し、予想や仮説、観察、実験の計画をする活動に関する箇所数</li> <li>・ 結果を分析して解釈し表現する力を高める活動に関する箇所数</li> <li>・ 探究の過程を振り返る活動に関する箇所数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 科学的に探究する力を育成するに当たっては、自然の事物・現象の中に問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈するなどの活動を行うよう留意する。</li> <li>・ 第1学年では自然の事物・現象に進んで関わり、それらの中から問題を見い出す活動、第2学年では解決する方法を立案し、その結果を分析して解釈する活動、第3学年では探究の過程を振り返る活動などに重点を置き、3年間を通じて科学的に探究する力の育成を図るよう留意する。</li> </ul>
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 科学技術の利用等、実生活・実社会、科学史に関する内容、自然の事物・現象について関心を高める内容、発展的な内容の箇所数</li> <li>・ 自然環境の調査、自由研究や課題研究等、生徒自らが探究的な活動の意欲を高める工夫の箇所数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主体的に探究する活動を通して、自然の美しさ、精妙さ、偉大さを改めて感得し、自然についての理解を深め、新たな問題を見いだそうとするなど、生徒の感性や知的好奇心などが育まれるよう留意する。</li> <li>・ 自然環境の保全や科学技術の利用に関する問題などでは、人間が自然と調和しながら持続可能な社会をつくっていくため、身の回りの事象から地球規模の環境までを視野に入れて、科学的な根拠に基づいて賢明な意思決定ができるような態度を身に付けるよう留意する。</li> </ul>

## 調査方法

### 種目名【 理科 】

観点	調査する内容・項目についての説明
<p style="text-align: center;"><b>A</b></p> <p>知識及び技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察、実験の方法、器具や機器などの使い方及び事故防止等の安全に関する記述の箇所数について調査を行った。</li> <li>例) 顕微鏡の使い方、電流計等の使い方、メスシリンダーの使い方に関する箇所</li> <li>例) 安全めがねをかける、換気を十分に行ったなどの記述箇所</li> <li>・観察記録や実験データを絵や文、表やグラフに表す活動を示した箇所数について調査を行った。</li> <li>例) 植物の分類、オームの法則、月の形の変化などの活動の箇所数</li> <li>・単元ごとや章末の練習問題及び学習内容を整理する工夫等の箇所数について調査を行った。</li> <li>例) 単元末、章末の練習問題、「考えてみよう」 の箇所</li> <li>例) 単元末、章末の学習のまとめ の箇所</li> </ul>
<p style="text-align: center;"><b>B</b></p> <p>思考力・判断力・表現力等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題を見いだして課題を設定し、予想や仮説、観察、実験の計画をする活動に関する箇所数について調査を行った。</li> <li>例) 予想や仮説、実験の計画を考えたり、話し合ったりする場面、課題についての箇所</li> <li>・結果を分析して解釈し表現する力を高める活動に関する箇所数について調査を行った。</li> <li>例) 結果からどのようなことが言えるのか、話し合ったりする箇所</li> <li>・探究の過程を振り返る活動に関する箇所数について調査を行った。</li> <li>例) 実験の結果をもとに、計画を振り返ったり、話し合ったりする箇所</li> </ul>
<p style="text-align: center;"><b>C</b></p> <p>学びに向かう力・人間性等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・科学技術の利用等、実生活・実社会、科学史に関する内容、自然の事物・現象について関心を高める内容、発展的な内容の箇所数について調査を行った。</li> <li>例) はやぶさ、光触媒、白夜、堤防の桜と防災などの内容を扱う箇所</li> <li>例) 物体の質量・速さと運動エネルギー、電池・電気分解のしくみなどの内容を扱う箇所</li> <li>・自然環境の調査、課題研究や自由研究等、生徒自らが探究的な活動の意欲を高める工夫の箇所数</li> <li>例) 課題研究テーマ例、時間があれば取り組みたい観察・実験を取り上げている箇所</li> </ul>

# 調査結果

## 理科

		観点A			観点B			観点C	
		知識及び技能			思考力・判断力・表現力等			学びに向かう力・人間性等	
研究調査事項	発行社	観察、実験の方法、器具や機器など の使い方及び事故防止等の安全に 関する記述の箇所数	観察記録や実験データを絵や文、 表やグラフに表す活動を示した箇所 数	単元ごとや章末の練習問題等及び学 習内容を整理する工夫の箇所数	問題をい出して課題を設定し、予 想や仮説、観察、実験の計画をする 活動に関する箇所数	結果を分析して解釈し表現する力を 高める活動に関する箇所数	探究の過程を振り返る活動に関する 箇所数	科学技術の利用等、実生活・実社 会・科学史に関する内容、自然の事 物・現象について関心を高める内 容、発展的な内容の箇所数	自然環境の調査、自由研究や課題研 究等、生徒自らが探究的な活動の意 欲を高める工夫の箇所数
		東京書籍	1年生			○	○	○	
2年生					○	○			○
3年生					○	○			○
大日本図書	1年生			○				○	○
	2年生	○	○					○	
	3年生	○		○				○	
学校図書	1年生		○				○	○	
	2年生		○			○	○		
	3年生		○				○	○	
教育出版	1年生	○	○						○
	2年生		○		○			○	
	3年生		○	○	○				
啓林館	1年生	○	○				○		
	2年生	○		○			○		
	3年生	○					○	○	

種目名	理科	発行者名	東京書籍
観点	選定のための参考		
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験の注意点については、「注意」と表示され、起こりうる危険性や注意点について明確に示されている。さらに数種類の安全についてのマークを示すことで、何に注意すべきか一目で分かるようにしている。</li> <li>・実験結果の整理については、「結果の見方」として生徒が何に注目して結果をまとめるべきかが分かりやすく示されている。また、「実験から」で学習内容が整理されており、まとめ活動や探究活動の参考とすることができる。</li> <li>・学習に役立つ観察・実験が、「どこでも科学」として手順入りで紹介されており、生徒自身が学習を深める活動として取り組むことができる。</li> <li>・章末ごとに、学んだことがチェックできるようになっている。また、単元末の「確かめと応用」では基本的な知識を問う問題と、学んだことを活用する問題とが区別されており、学びの段階に応じて取り組むことができる。</li> </ul>		
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各単元や章、節の導入では、身のまわりの事象について、生徒が主体的に課題を見出せるとともに、抱いた疑問について考えを深められるような問いかけがなされている。</li> <li>・探究的な学習の場面では、「問題発見」「仮説」「構想」「分析・解釈」などの学習活動が充実しており、科学的な思考力・判断力・表現力等が効果的に育成できるように構成されている。</li> <li>・考察について、細やかな思考のステップを設定することで、生徒が段階を踏んで分析・解釈をしやすいように工夫されている。</li> </ul>		
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の興味や関心をひく内容の写真を適切に使用することで、探究する意欲を高める工夫がされている。</li> <li>・本文内のコラム「つながる科学」や各単元のコラム「世界につながる科学」では、関連職業に就く人のインタビューを用いて、生徒に親しみをもたせながら知的好奇心などを育む工夫がされている。</li> <li>・巻末にある「学びを広げよう自由研究」では、その学年の学習内容に関連する研究テーマを例示しており、生徒が探究的な活動をするためのヒントとして活用することができる。</li> <li>・単元末や巻末において、学習内容に関連した書籍や博物館・ジオパークなどの施設の紹介があり、生徒が身に付けた学習内容を自ら深めることができる。</li> </ul>		

種目名 理科	発行者名	大日本図書
観点	選 定 の た め の 参 考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験の注意点については、「注意」と表示され、安全に配慮できるようにしている。</li> <li>・実験結果の記録については、「結果の整理」として生徒が何に注目して結果を記入すべきかが分かりやすく示されている。また、次のページに結果例が示されており、まとめ活動や探究活動の参考とすることができる。</li> <li>・学習の導入や課題の発見につなげたり、学習を深めたりする観察・実験について、「やってみよう」という形で示されており、必要に応じて取り組むことができる。</li> <li>・章末問題が設定されており、各章の学びを確認することができる。また、単元末の「単元末問題」では基本的な知識を問う問題と、読み解く力を問う問題とが区別されており、学びの段階に応じて取り組むことができる。</li> </ul>	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の導入として「理科の学習の進め方」、学習する内容のめあてや課題、関連する既習の内容を振り返るページが設けられており、生徒が見通しをもって探究活動を行うことができる。</li> <li>・「探究の進め方」のページでは、具体例を挙げて探究の過程が説明されている。また、観察・実験では、注目すべきポイントが「着目点」として示されており、生徒が主体的に探究しやすく、科学的な思考力・判断力・表現力等を伸ばすことができる。</li> <li>・観察・実験では、考察するポイントや結果の例が具体的に示されており、考察する力を養うことができる。</li> </ul>	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の各単元の導入部分において、「これまで学習したこと」と「これから学習すること」が見やすくまとめられているため、つながりを意識して学習することができる。</li> <li>・巻頭や「Professional」「くらしの中の理科」「Science Press」などのコラムの中で、理科に関連した職業や発展的内容を紹介することで、学習内容と日常生活や社会とを関連づけ、知的好奇心などを育む工夫がされている。</li> <li>・単元末の「探究活動」では、生徒が関心を持ちやすい内容についての探究例が示されている。また、巻末には「自由研究にチャレンジしよう」と題して、単元ごとに生徒が探究的な活動をするためのテーマ例が数多く示されている。</li> <li>・巻末の「行ってみよう科学館博物館」「ジオパークを見学しよう」では、全国各地の施設とその特徴が紹介されており、住んでいる場所や興味に応じて資料として役立てることができる。</li> </ul>	

種目名 理科	発行者名	学校図書
観点	選 定 の た め の 参 考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験の注意点については、「ストップ」と表示され、安全に配慮できるようにしている。</li> <li>・多くの観察・実験では、探究の過程が大切にされており、「Can-Do List」で身に付けたい技能が明確に示されている。実験の流れについては、大きな写真を用いて分かりやすく示されている。</li> <li>・学習の導入や課題の発見につなげたり、学習を深めたりする観察・実験が「やってみよう」という形で示されており、必要に応じて取り組むことができる。</li> <li>・章末にある二次元コードを読み取ると、学習内容の整理や基本的な練習問題を確認することができる。また、単元末の「学びを日常にいかしたら」では、生活と関連した問題が出題されており、学習の有用性を実感できる。</li> </ul>	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の導入では、「学びのあしあと」として単元を通した課題が提示されている。各章の導入では、「Can-Do List」として単元で身に付けさせたい力が明確に示されているとともに、章末に再提示することで身に付いた力を確認することができる。</li> <li>・観察・実験では、生徒の思考を助ける会話文がイラストの吹き出しで示されており、探究の過程を意識することができる。</li> <li>・観察・実験のページでは、「結果」や「考察」の見方・考え方が示されている。また、結果・考察の例が示されたページでは、観察・実験を振り返ることで、結果を分析・解釈する方法を身に付けることができる。</li> </ul>	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察・実験に関するページについて、「気づき」「課題」「仮説」「計画」「方法」などの各ステップが2～3ページにわたって丁寧に書かれており、生徒の探究活動を手助けする工夫がされている。</li> <li>・巻頭コラム「ミッションX」や各単元末の「学びを日常にいかしたら」で、理科に関連する働く人を紹介したり日常にまつわる問題を取り上げたりすることで、生徒に科学を学ぶ意義や有用性を実感させる工夫がされている。</li> <li>・巻頭には「どうやって理科を学ぶの」と題して、探究的に観察・実験を進めるための過程が示されている。また、「この自由研究がスゴイ」では、高校生の取組がインタビュー形式で紹介され、研究方法や研究への姿勢について学ぶことができる。</li> <li>・巻末に「学びの交換」と題して、ホワイトボードとして活用できるページが設けられており、班学習を進めたり、友達の考えを聞いたりして自分の考えを深めていくことができる。</li> </ul>	



種目名	理科	発行者名	教育出版
観点	選 定 の た め の 参 考		
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験の注意点については、「注意」と「禁止」に分かれており、より安全に配慮できるようになっている。</li> <li>・実験結果の記録については、多くの実験で表やグラフにまとめる活動が取り入れられており、結果の整理がしやすくなっている。</li> <li>・学習に役立つ観察・実験が、「参考」「やってみよう」「チャレンジ」という形で示されており、生徒の学習状況に応じて必要な内容に取り組めるようになっている。</li> <li>・章末ごとにある「要点のチェック」では、学んだことを自分の言葉で説明し、整理することができる。また、単元末には「要点と重要用語の整理」と「基本問題」があり、学びの段階や目的に応じて取り組むことができる。</li> </ul>		
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元や章の導入では、課題発見につながる対話をイラストで効果的に提示し、生徒が学習内容に対して関心をもちやすい構成になっている。</li> <li>・観察・実験では、課題に対する仮説を話し合ったり、対話的に方法を計画したりできるように工夫されている。</li> <li>・探究活動では、予想と結果を比較したり、結果をもとにした考察の仕方を示したりすることで、科学的に課題を解決することができる。</li> </ul>		
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いずれの学年も巻頭で、「探究の進め方」と題して「疑問を見つける」「課題を決める」などの学習の流れが示されており、一貫してそれに沿う形で各単元・各章の内容が構成されている。また、各単元に「疑問から探究してみよう」が設けられており、そこで扱う観察・実験については、探究活動を生徒に促す構成となっている。</li> <li>・本文内の科学読み物「ハローサイエンス」などを中心に、随所に学習内容と生活、安全、歴史、環境などに関する身近な科学や最先端の科学の話題について学習することができる。</li> <li>・発展的な実験内容の「やってみよう」「チャレンジ」が数多く設けられていて、身近な材料を用いた実験などを通して、既習内容をもとに学びを深めていくことができる。</li> <li>・巻末の「校外の施設を利用しよう」では、博物館や動物園などの施設を活用した学習の進め方が示されている。</li> </ul>		

種目名	理科	発行者名	啓林館
観点	選定のための参考		
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験の注意点については、「！」や文章で、起こりうる危険性について注意がされている。さらに数種類の安全についてのマークを示すことで、何に注意すべきか一目でわかるようにしている。</li> <li>・図や説明文では分かりにくい実験方法について、二次元コードを読むことで、実験手順が動画で確認できるようにしている。また、「実験から」では、学習内容が分かりやすくまとめられている。</li> <li>・授業で取り組む観察・実験の他に、学習に役立つ観察・実験が手順まで細かく示されており、授業内容をより深めることができる。</li> <li>・章末ごとに「基本のチェック」として学んだことが確認できるようになっている。また、単元末の「力だめし」では観察・実験を通して学んだことが知識として定着しているかどうかを問う問題と、思考力を高める問題とが区別されており、学びの段階に応じて取り組むことができる。</li> </ul>		
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各単元の「探Q」では、二次元コードが記載されており、課題設定や仮説を立てるための手がかりが示されている。また、考察のポイントとなるヒントを対話のかたちで示し、主体的に探究活動を進められるように工夫されている</li> <li>・「課題の把握」から始まり、「課題の追究」、そして「課題の解決」といった探究の過程に沿って内容が構成されており、系統的に学習を進めることで、探究する力を育てる工夫がされている。</li> <li>・実験後には、必ず探究活動の振り返りが設定されている。また、導入時と単元末に同じ疑問を投げかけることで、単元を通して何を学んだのかを確認できるよう工夫されている。</li> </ul>		
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各単元に「探Qシート」を用いた観察・実験が設定されており、生徒が仮説を立てたり、計画や方法・必要器具を考えたりするなど、探究活動をより一層促す構成となっている。</li> <li>・「お仕事ラボ」「部活ラボ」「ひろがる世界」などのコラムや、二次元コードによる映像で、日常生活や社会との関連に関する資料を紹介し、科学を学ぶ意義や有用性を実感させる工夫がされている。</li> <li>・単元末の「みんなで探Qクラブ」では、生徒が関心をもちやすい内容について、探究方法が示されている。巻末には「自由研究テーマ例」と題して、各単元に関する探究的な活動の例が示されている。</li> <li>・巻末のサイエンス資料には「ICTの活用」という項目を設定し、ICTを活用してより多面的に実験結果を考察したり、分かりやすく発表したりする方法が示されている。</li> </ul>		